

2026年度

枚方市立第四中学校
1年2学期シラバス集

学習進路指導部

1. はじめに

大阪府では、各評価が目標に準拠した評価(絶対評価)で行われています。これに伴い、評価の規準についてもより明確になっています。

2. 通知票及び調査書の評価基準について

各科目(国語・社会・数学・理科・音楽・保健体育・美術・技術家庭・外国語の9教科)について、3観点があります。

各教科それぞれ3観点について、A,B,Cの評価をつけ、その観点別評価【表1】から、教科として5段階評価(5、4、3、2、1)の総合評定【表2】をつけます。

それぞれの評価基準については、次の表に記します。なお、この評価は、枚方市内統一の評価基準となります。

【表1】

観点別評価		目標到達度
A	十分満足できる	75%以上
B	おおむね満足できる	40%以上
C	努力を要する	40%未満

※表1の観点別評価を、A…3点、B…2点、C…1点に換算し、下の表2に当てはめます。

【表2】

総合評定		観点評価合計	目標到達度
5	十分満足できるもののうち、特に程度が高い	9点	85%以上
4	十分満足できる	8点以上	75%以上
3	おおむね満足できる	5点以上	40%以上
2	努力を要する	3点以上	
1	一層努力を要する	3点	20%未満

(「観点評価合計」と「目標到達度」の両方を満たすことが必要になります。)

※表1と表2を総合的に判定しますので、例えば観点別評価「AAA」の生徒であっても、総合評定「5」がつく場合と「4」がつく場合があります。

3. 調査書対象学年について

平成30年度入試以降は入学時よりの成績が対象となっています。

入試	対象学年	比率
平成30年度入試以降 (現1～3年生)	第1学年～第3学年	(第1学年:第2学年:第3学年 =1:1:3) ※高校による

「絶対評価」とは、学習指導要領に示す目標をどの程度達成できたか、達成状況を見るための評価です。個人の努力がそのまま反映されますので、本校では、各教科シラバスを作成し、授業や提出物、テストなどの生徒の日常の頑張りを評価していきます。

毎回の授業を大切に、毎日の学習にしっかり取り組んで、自分の力をどんどん伸ばして欲しいと思います。

※シラバスは、現時点での予定を示したものです。従って、授業の進捗等により、多少変更する場合があります。

国語【1年 2 学期】

	教材の種類・単元名	到達目標
8.9月	古典:月を思う心 竹取物語	・登場人物の相互関係や心情の変化について、描写をもとに捉える。 ・古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界を感じ取る。
	説明文: 1000円の価値を考える	・文章の要旨を捉え、筆者の考えに対して自分の考えをもつ。 ・文章の構成や展開をもとに、筆者の表現の工夫について考える。
	文法:活用しない自立語 (名詞)	・名詞について正しく理解する。
	・単元テスト<範囲:古典・説明文・文法> 提出物:自主学習ノート(単元テスト終了後) 漢字小テスト 暗唱テスト(「竹取物語」) *授業プリント、漢字ノート、白プリの他、授業で取り組んだ課題 は適宜提出	
10・11月	詩:それだけでいい	・表現に着目しながら読み、その特徴と効果について自分の考えをもつ。 ・詩の中の言葉を的確に捉えて、内容を理解する。
	物語:トロッコ	・情景描写と場面の展開を結びつけて内容を捉える。 ・人物の言動に着目して、心情の変化を捉える。
	古典:故事成語	・話の展開を捉え、表現の効果について考える。 ・訓読の仕方を知り、漢文調のリズムを意識して音読する。
	・期末テスト <範囲:漢字20問・「それだけでいい」・「トロッコ」・「故事成語」・「文法:副詞・連体詞・接続詞・感動詞」> ・提出物:漢字ノート・自主学習ノート *授業プリント、白プリの他、授業で取り組んだ課題 は適宜提出	
12月	「情報を関連づける」	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、内容を解釈する。 ・引用や出典の示し方について理解を深め、読み手の立場に立って表記や表現の仕方を整える。
	行事案内リーフレット	・必要な情報をわかりやすく伝えるために、リーフレットを作成する。

観点別学習状況の評価対象と内容		
① 知識・技能	35%	① 定期テスト・単元テスト・小テスト(漢字・暗唱)・書写(毛筆・硬筆)・レポート など
② 思考・判断・表現	30%	② 定期テスト・単元テスト・授業内での課題(作文・レポート含む) など
③ 主体的に学習に取り組む態度	35%	③ 学習に取り組む姿勢・提出物(漢字ノート、授業プリント、白プリ、自主学習ノート、ふり返しシート、テストふり返し、夏休みの宿題(プリント・レポート含む)、その他授業で取り組んだ課題 など)

社会【1年2学期】

分野	月	単元	到達目標
歴史	9月	歴史へのとびら	・歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりする活動を通して、時代区分や時代の移り変わりを理解する。 ・中学校の歴史学習の導入として、歴史に対する興味・関心や歴史を学ぶ意欲を高める。
		古代までの日本①	・世界の古代文明や宗教が生まれたこと、また、日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことを理解する。
		・単元テスト(1回) ・単元レポート(1回) ・授業課題	
		古代までの日本③	・律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解する。 ・律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究する。
		中世の日本①	・鎌倉幕府の成立を基に、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解する。
		・単元テスト(1回) ・単元レポート(1回) ・授業課題	
地理	10月 11月	世界の諸地域①	・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。 ・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し表現する。
		・単元テスト(1回) ・単元レポート(1回) ・授業課題	
歴史	11月 12月	中世の日本②	・東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、東アジアの動きや民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し表現する。
		・単元テスト(1回) ・単元レポート(1回) ・授業課題	

観点別学習状況の評価対象と内容		
①知識・技能	30%	単元テスト・期末テスト・予習プリント
②思考・判断・表現	40%	単元レポート・期末テスト・ふりかえりプリント・探求課題
③主体的に学習に取り組む態度	30%	単元レポート・期末テスト・提出物(予習プリント・ふりかえりプリント・ノート)・授業に取り組む姿勢

数学【1年2学期】

月	教材の種類・単元名	到達目標
8 ・ 9 月	3章 方程式 ・方程式 ・方程式の利用	・方程式とその解の意味を理解し、一元一次方程式を解くことができる。
		○単元テスト(知識・技能)
		・方程式や比例式を問題解決に利用することができる。
		○単元テスト(思考・判断・表現) 提出物:単元レポート 振り返りプリント
10 月	4章 変化と対応 ・関数 ・比例 ・反比例 ・比例・反比例の利用	・具体的な事象から比例・反比例の関係を見出し、式に表したり、式から性質を理解したりすることができる。 ・座標平面を使って比例・反比例の関係をグラフに表すことができる。
		○単元テスト(知識・技能)
		・表・式・グラフから比例・反比例の性質を理解し、活用することができる。
		○単元テスト(思考・判断・表現) 提出物:単元レポート 振り返りプリント
11 月 ・ 12 月	5章 平面図形 ・直線と図形 ・移動と作図 ・移動と作図の利用 ・円とおうぎ形	・図形の移動について理解し、作図ができる。 ・定規とコンパスだけを使った正しい作図の方法を理解し、基本の作図ができる。
		○単元テスト(知識・技能)
		・基本的な作図を利用して、いろいろな作図ができる。 ・円やおうぎ形の性質を理解し、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。
		○単元テスト(思考・判断・表現) 提出物:単元レポート 振り返りプリント
観点別学習状況の評価対象と内容		
知識・技能 (30%)		定期テスト・単元テスト等
思考・判断・表現等 (35%)		定期テスト・単元テスト等・単元レポート
主体的に学習に取り組む態度 (35%)		提出物・ノート・振り返り・授業への取り組み等

理科【1年2学期】

		教材の種類・単元名	到達目標
理 科	8 月	エネルギー分野	・ものが見えるしくみについて、説明することができる。
	9 月	『光・音・力による現象』	・空間中での光の進み方について、作図を用いて説明することができる。
		1章 光による現象	・鏡にうつるものの見え方について、作図を用いて説明することができる。 ・材質の異なる透明な物体中を進む光の進み方について、作図を用いて説明できる。 ・凸レンズでの物の見え方について、作図を用いて説明できる。
	10 月	2 章 音による現象	・音のしくみと、音の大小、高低のしくみを説明することができる。
		3章 力による現象	・物体にはたらくちからについて、矢印を用いて説明することができる。 ・ばねにはたらく力を、分析することができる。 ・質量と重さの概念について、理解できる。 ・物体にはたらく2力のつり合いについて、分析することができる。
	11 月	物質分野	・物体を構成する物質について見分ける方法を説明できる
	12 月	『身のまわりの物質』	・物質の違いについて、重さや体積の違いから見分けることができる。
		1章 いろいろな物質とその性質	・物質の密度を計算することができる。
		2章 いろいろな気体とその性質	・身のまわりにある気体の性質を説明できる。 ・身のまわりにある気体の性質の違いから、それらを見分けることができる。

観点別学習状況の評価対象と内容		
① 知識・技能	約33%	小テスト・期末テスト・課題
② 思考・判断・表現	約33%	小テスト・期末テスト・課題
③ 主体的に学習に取り組む態度	約33%	提出物・課題・授業への取り組み

英語【1年 2 学期】

進度 予定	単元	到達目標
8 月 ～ 9 月	Program 4 - Let's enjoy Japanese food -	This[That] is～.や He[She] is～.の意味や働きを理解し、活用する技能を身に付けている。 ・who の疑問文や人称代名詞の意味や働きを理解し、活用する技能を身に付けている。 ・日本の食文化について他の人に伝えるために、対話を読んで、概要や要点を捉えることができる。 ・日本の食文化について他の人に伝えるために、簡単な語句や文などを用いて、写真や絵を見て、相手に示しながら概要を話している。
	単元テスト、Talk and Talk	
	Program 5 -Pajama Day-	・3人称・単数・現在の意味や働きを理解することができる。 ・自分と相手以外の他者について伝え合うことができる。
	Power-Up2 -持ち物をたずねよう-	・which や whose の意味や働きを理解することができる。 ・登場人物の持ち物についてたずねたり答えたりすることができる。
	単元テスト、Talk and Talk	
10 月	Program 6 -The Way to School-	・him や her、why の疑問文、Because～.の意味や働きを理解することができる。 ・人やものについて伝えたり、理由をたずねたりすることができる。
	Step3 -話の組み立て方を考えよう-	・相手にわかりやすい話の組み立て方について理解することができる。 ・理論だてスピーチ原稿を書くことができる。
	Talk and Talk、日本のアニメ・キャラクターについて紹介するポスター	
11 月	Program 7 -Research on Australia-	・There is(are)～.や how の疑問文の意味や働きを理解することができる。 ・身の回りにあるものや交通手段について伝え合うことができる。
	疑問詞のまとめ	・さまざまな疑問詞の使い方を理解することができる。 ・質問したり答えたりすることができる。
	Power-Up3 -学校案内をしよう-	・道案内で使う表現を理解することができる。 ・行きたい場所や行き方を伝え合うことができる。
	Step4 -聞き上手になろう-	・発表を聞くとときに気をつけるポイントを理解することができる。 ・発表者が気持ちよく話せる聞き方が身につくことができる。
	Talk and Talk、パフォーマンステスト(NETに日本のおすすめスポット紹介・インタビュー)	
12 月	Our Project2 -この人を知っていますか-	・自分が紹介したい人物・キャラクターについて相手に興味を持ってもらうために、自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文などを用いて伝えたり、書いたりすることができる。
	パフォーマンステスト(スライドを使って発表)	
	Program8 -Happy New Year!-	・現在進行形の意味や働きを理解することができる。 ・今していることについて伝え合うことができる。

	Power-Up4 -ショッピングをしよう-	・服屋などの店で買い物をするときに使う表現を理解することができる。 ・おすすめの商品の提案を聞き取ったり、色違いの商品を求めることができる。
	Talk and Talk、単元テスト	

観点別学習状況の評価対象と内容	
知識・技能(約30%)	定期テスト、単元テスト、英作文課題
思考・判断・表現(約40%)	定期テスト、単元テスト、パフォーマンステスト、英作文課題
主体的に学習に取り組む態度(約30%)	ライティングノート、英作文課題、パフォーマンステスト、振り返り

音楽【1年2学期】

分野	単元	到達目標
歌唱	曲想を生かして合唱しよう。(8月～)	・混声合唱の響きに関心を持ち、楽曲にふさわしい表現を工夫することができる。
	情景を思い浮かべながら、思いをこめて歌おう。(10月)	・旋律の動きや強弱の変化がどのように曲想と関わっているかを感じ取り、表現を工夫して歌うことができる。
器楽	LESSON1〔左手による運指〕(8月)	・左手の運指に気を付けながら、吹き方を工夫することができる。
	LESSON2〔両手による運指〕(10月)	・両手の運指に気を付けながら、吹き方を工夫することができる。
鑑賞	曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう。(9月)	・詩の内容や音楽の特徴に気を付けて場面の様子を想像しながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。 ・登場人物の旋律の雰囲気や歌い方の違いに注目しながら聴くことができる。
	人々の暮らしの中から生まれた日本の民謡を聴こう(11月～)	・声の音色、節回しやリズムの特徴などに気を付けながら日本の民謡のよさや美しさを味わって聴くことができる。

観点別学習状況の評価対象と内容	
知識・技能(35%)	小テスト・実技テスト
思考・判断・表現(35%)	実技テスト・ワークシート
主体的に取り組む態度(30%)	ワークシート・忘れ物・授業への取り組み

体育【1年 2 学期】

保 健 体 育	単元	到達目標	
	・水泳(8・9月)	・記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに泳法(クロール、平泳ぎ)を身に付けること。	
	・ハードル走(10月)	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち技術の名称や行い方などを理解するとともに、ハードルをリズムカルに走り越えることができるようになる。	
	・バレーボール(11月)	・ラリーを続けることを重視し、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにする。	
	・持久走(12月)	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち技術の名称や行い方などを理解するとともに、ペースを守って走るなどといった基本的な動きや効率の良い動きを身に着けること。	
	・保健 (健康な生活と病気の予防： 5調和のとれた生活～ 心身の機能の発達と心の健康： 3生命を生み出す体への成熟～ ○単元テスト(11～12月)	・健康の成り立ちと病気の起こる要因、食事、休養・睡眠、調和のとれた生活について理解できるようにする。 ・心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。	
	通知票の観点別学習状況の評価対象と内容	・知識・技能・・・技能テスト・小テスト	50%
		・思考・判断・表現・・・技能テスト・振り返り・授業の様子 レポート	25%
		・主体的に学習に取り組む態度・・・授業の取り組み、忘れ物、見	25%
		学出欠状況・ワーク提出	合計100%

美術【1年2学期】

月	分野	単元	到達目標
8～9 月	工芸	暮らしの中の木の工芸 (寄せ木)	木の質感や特性、形や色あいに着目し、ぬくもりなどをとらえ、加工方法を工夫して見通しを持って表すことができる。
			木の特性や美しさ、使う場面や使う人の気持ちをもとに、使いやすさなどの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりすることができる。
			木の良さや使いやすさなどを生かして作ることに関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。
10 月	鑑賞	鑑賞との出会い (現代アート)	美術を身近に感じ、その必要性などの美術の持つ力を感じることができる
			他者と自己との意見を比較しながら、自分らしい造形的なものの見方・感じ方を深めることができる
11～12 月	絵画	なぜか気になる情景 (アートグラス)	形や色彩、全体の様子などに着目し、そこから生じるイメージをとらえ、道具の使い方を工夫したりすることができる。
			身近な場所のイメージをもとに、形や色彩、構図などの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりすることができる。
			気になる場所を見つけ、その特徴をとらえて表すことに関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。
観点別学習状況の評価対象と内容(合計:300 点)			
知識・技能 (30%、90 点)			作品等
思考力・判断力・表現力 (40%、120 点)			計画表、インタビューシート、鑑賞シート、自己評価表等
主体的に取り組む態度 (30%、90 点)			授業態度(意欲・提出物等)、F シート等

技術家庭【1年 2 学期】

技術分野			
月	分野	単元	到達目標
9 10	(技術) 材料と加工の技術	材料に適した加工方法	・目的とする加工に応じた工具や機器について理解する。
9		丈夫な製品を作るために	・構造と部材を丈夫にする方法について理解し、まとめることができる。
9 10 11		設 計・製 作	製作に必要な図を理解し表せる。 工具や機器を安全に使用することができる。 部品加工、組み立て及び仕上げ作業が正確にできる。
家庭分野			
月	分野	単元	到達目標
9 10 11 12	(家庭) 私たちの衣生活	生活を豊かにするために	・製作に適した材料や縫い方、用具の安全な取り扱い方について理解できる。 ・資源や環境に配慮して布を用いた物の製作計画を考え、工夫して製作できる。
点別学習状況の評価対象と内容 以下の①②③を均等の割合で評価します			
① 知識・技能		(30%、90 点)	提出物・テスト・実習製作品
② 思考・判断・表現		(40%、120 点)	テスト・提出物・実習製作品
③ 主体的に学習に取り組む態度		(30%、90 点)	授業の取り組み(意欲・提出物など)